

海陽中等教育学校

算数

〈出題傾向〉

小学校の教科書で学習している内容が基本です。特に、高学年で学習する内容に重点を置いています。基礎的な問題から応用・発展問題まで、まんべんなく出題します。答えだけでなく、考え方も書く記述問題を必ず出題します。

〈答案作成時の留意点〉

説明のなかで誤字・脱字があった場合は減点することがあります。

〈対策〉

小学校 4～6 年の教科書の内容をしっかりと理解しておいてください。2010 年度以降の入試問題などを参考に学習しましょう。解答だけでなく、解答を導く思考過程を簡潔に書き残す練習を心がけてください。

国語

〈出題傾向〉

文学的文章または論理的な文章から大問 2 題を出題します（「長文 1 題＋語彙問題」で出題する可能性もあります）。また、漢字の読み書き、抜き出し、記号問題だけでなく、記述形式の問題も出題します。

〈答案作成時の留意点〉

文字は一文字一文字、一画一画をていねいに書いてください。設問をよく読み、条件をきちんと理解したうえで解答してください。

〈対策〉

日ごろから幅広い読書の習慣を身につけてください。前後の文脈を読み取って意味を考える力を付けてください。

理科

〈出題傾向〉

例年、物理・化学・生物・地学の各分野から大問を 1 題ずつ程度出題しています。基本的な算数を使った計算問題や、記号で答える選択式の問題、文章で答える問題、グラフをかく問題などを出題しています。特別給費生入試も一般入試とほぼ同様の形式ですが、記述問題が若干含まれる予定です。大問数が少なく、発展的な題材を扱う可能性があります。

〈答案作成時の留意点〉

計算問題については、「小数第 2 位を四捨五入して小数第 1 位まで」といった問題文の指示に従って解答してください。小学校の理科の教科書に漢字で記載されていることば（特に理科用語）は、漢字で書けるようにしておきましょう。

〈対策〉

小学校で学習する基礎的な知識を身につけ、さらに、それを応用する力を養ってください。日ごろから身近な自然現象や、小学生でもできる実験に興味を持ち、なぜそうなるのかを探究する態度を身につけましょう。小学校で行う実験にも積極的に参加してください。

社会

〈出題傾向〉

入試Ⅰ・Ⅱは地理、歴史、公民の各分野から大問1題ずつ、特別給費生入試ではそれら3科目の統合問題を出题します。地図やグラフ、写真といった資料を使いその内容や背景を読み解く問題がほとんどです。

選択式、短答式の問題も出题しますが、やはり中心は論述式の問題です。

〈答案作成時の留意点〉

古い(新しい)、北(南)から順に並べる、特徴をまとめる、理由を説明する、問題文には様々な条件が示されています。それらをきちんと読み取り、それに応えるように解答して下さい。

〈対策〉

いつでも世の中に関心を持って生活する(ニュースの現場を地図で確認する等)ことが社会を得意科目にする近道です。考えながら、確かめながら覚えた知識をどれだけ活用できるか。

その上で相手に伝わる言葉の使い方、表現の練習を積むことが大切です。

英語(帰国生入試)

〈出題傾向〉

記述式試験と面接試験に分かれています。記述式試験では「英検」2級～準1級程度の英文を題材として、主に読解力、大意把握力、語彙・文法力を問います。エッセー問題は、文章の内容に対する自分の意見を1ページ程度の英語で述べる形式です。そこでは、自分の考えを正確に伝える、総合的な英語能力を問います。面接試験では、英語での対話を通して、リスニング・スピーキング力を問います。記述式試験の時間は35分で、5～10分程度を使って英語面接試験を行います。また、保護者同伴の面談もあります。

〈答案作成時の留意点〉

記述式試験では、英文の内容や意味を日本語で説明する問題も出题します。わかりやすく、ていねいな字で解答を作成してください。エッセー問題では、自分の意見をより良く伝えるための文章構成を意識してください。面接試験では、志望動機、海外での経験、日本の社会や文化についての考えなど、自己アピールしやすい事柄が質問されます。自分らしく率直に答えてほしいと思います。

〈対策〉

日ごろから幅広く英文を読み、その内容を自分なりにまとめる習慣をつけましょう。自分の体験や考えを、英文エッセーでわかりやすく、正確な綴りで表現できる練習を行うことも大切です。会話のなかで自分の考えや体験を表現する練習をしてください。

ラ・サール中学校

算数

基本的計算と小問で3～4割の配点です。残りは大問が3～4題です。ここで、文章問題、平面図形、立体図形、場合の数などから出題し、1題は、途中の考え方を書かせる問題を出したいと思っています。計算力をつけるための十分な練習をして、いろいろな工夫を身につけておくといでしょう。文章題では問題をよく読むようにしましょう。

国語

設問が問うていることを的確に押さえましょう。答えやヒントは必ず問題文中にあります。単に文中の表現をつなぎ合わせただけの解答では、意味の異なったものになることがあるので注意しましょう。大問は3題です。2題が読解問題で、1題は漢字や語句についての問題です。100～150字で答える記述問題を必ず1問は出題します。

理科

大問は、物理・化学・生物・地学の4分野から1題ずつ出題します。理科は思考力・観察力・計算力が大事です。また、物事に対する興味も重要です。身の回りに日常的に見られる事柄を、日ごろ勉強していることから発展させて考えられる能力を身につけておいてください。

社会

歴史は出来事の背景・内容・結果、そして次の時代への影響を理解することが大切です。地理は日本地理が中心で、地域の自然（地形・気候）と人々の営みとの関係をとらえること、政治・経済はそれらの仕組みを把握することが大事です。また、新聞やテレビを通じて、日本や世界の動きにも注意するようにしましょう。答えは、漢字指定のものは正しい漢字で答えること。ただし、それ以外でも教科書に漢字で出てくるものは、漢字で答えられるようにしておいてください。